

(オルケストラ シンフォニカ タケイ改め)
オルケストラ シンフォニカ 東京

第1回〔通算 第29回〕

定期演奏会

昭和63年4月11日(月) P.M.6:30開演

日比谷 第一生命ホール

〔JR:有楽町駅・地下鉄:銀座又は日比谷駅下車〕

御招待

〔本状ご持参下さい〕
皆様お誘い合せの上ご来場下さい

プログラム

編曲・指揮：高野吉司

第 1 部

★春 交 奏 曲

作曲：小池正夫

★^{すな}漁^{どり}子 の 唄

作曲：高野吉司

★祝 典 序 曲

作曲：鈴木静一

〔休憩〕

第 2 部

★亡き王女のためのパヴァーヌ

作曲：モーリス・ジョセフ・ラヴェル

★歌劇「ゴエスカス」間奏曲

作曲：エンリケ・グラナードス

★ア ン ネ ン ポ ル カ

作曲：ヨハン・シュトラウスI世

〔休憩〕

第 3 部

★ロシ ア 舞 曲 モスコ ー の 真 昼

作曲：ディノ・ベルティ

★アラビア風小品 カイロの思い出

作曲：ジュセッペ・マネンテ

★田園風小夜曲 我等が懐かしき山々

作曲：ドメニコ・デ・ジョヴァンニ
〔編曲：中野二郎〕

曲 目 解 説

第 1 部

★春 変 奏 曲

作曲：小 池 正 夫

誰もが必ず歌ったことのある思い出懐かしい小学唱歌「春が来た」を主題として、6つの変奏曲を伴った懐古的な歌調は、幽艶でしかも奔放的な美しさに満ちています。 作者は東京プレクトラム・ソサエティーの創立会員であり、演奏に作曲に活躍されておりましたが昭和40年他界されました。「古戦場の秋」「小川の囁き」「落葉の踊り」等の作品があります。

★漁 子 の 唄

作曲：高 野 吉 司〔op.18〕

『夕月に濡れた砂丘を歩む。 ゆるやかに響く沖の潮鳴り、磯浜には今宵も大漁の喜びに、その賑やかな漁子達の歌声も——やがて薄れて漂うは浜茄子の紫の香りばかり。 村人の明日への希望を夢みる静かな夜更けを——一人静かに砂丘を下る。』 昭和17年に作曲、勤務の為外務省より中国在外公館に赴任したので未発表のまま終戦を迎え、戦火を免れて塵にまみれたリュックサックの中に残っていた作品で、昭和22年東京プレクトラム・ソサエティーにより初演発表されました。

★祝 典 序 曲

作曲：鈴 木 静 一〔op.25〕

作者は斯楽に多大の貢献をされ沢山の作品を物されておりましたが、その才を惜しまれつゝ昭和55年他界されました。東京プレクトラムに所属され初期の作品の多くを発表されております。 本曲は今上天皇御即位の大儀をお祝いして昭和3年9月に作曲されたもので、曲冒頭は緩徐にして荘重な全楽器の斉奏に始まり、その主旋律は明快な和音を伴って全曲を通して終始各所に展開され、彌栄の盛典を奉祝する力強いクライマックスで曲は閉じます。 尚本曲は当初「祝典序楽」であったものを、昭和43年改訂補筆を施して「祝典序曲」と改題されました。

当楽団の改称第1回の定演に当り、新たな出発とその将来の躍進を祝って、敢えて本曲を演奏することゝ致しました。

第 2 部

★亡き王女のためのパヴァーヌ

作曲：モーリス・ジョセフ・ラヴェル

原曲はピアノ曲であります但管弦楽用に編曲演奏されて広い人気を獲得したもので、ルーヴル美術館にあるヴェラスケスによる若い王女の肖像と関係があるといわれていますが、他説にはこの曲のフランス語の題名——PAVANE POUR UNE INFANTE DEFUNTE——の発音から知られる様に、同じ様な発音の単語を繰り返すことの面白さから、この題名になったとも云われております。この繰り返すと云うことは、この曲がパヴァーヌのリズムのパターンを巧みに反復していることに関連しています。パリ音楽院出身・ドビュッシーの影響を受けた印象派音楽の大家でフランスの作曲家。

★歌劇「ゴエスカス」間奏曲

作曲：エンリケ・グラナードス

作者はスペインの作曲家。民族主義とロマン主義の両面を持っていて円熟期に至って、此等2つの要素を絶妙に融合した傑作「ゴエスカス」が生まれました。オペラとしては上演されなくても、この間奏曲は永久不滅の光に輝いて多くの人に愛奏されています。第1次大戦中「オペラ・ゴエスカス」がニューヨークで初演され、その立ち会いの帰路イギリス海峡で乗船がドイツ潜水艦に沈められて、惜しくもその生涯の幕を閉じました。

★ アンネンポルカ

作曲：ヨハン・シュトラウス I 世

作者はウィンナーワルツの草創期に重要な役割を果たした人で、オーストリアの作曲家・指揮者でヴァイオリン奏者でもあり（ワルツの父）とも呼ばれています。アンナと云う全女姓を讃え、特に皇后マリア＝アンナの命名祝日を祝賀して発表されたものであります。ポルカもワルツと並行してウィーンで大流行をみましたが、これはボヘミアあたりに起源を持つ2拍子の舞曲で、テンポの早い景気の良いものと、ゆっくりしたテンポによる優美なものがあります。

第 3 部

★ ロシヤ舞曲 モスコーの真昼

作曲：ディノ・ベルティ

1930年イル・プレットロ主催の作曲コンクールに本曲は「黄昏を語る時」と共に1等に入賞したもので当時イタリアのマンドリン界は沈滞期に入っていましたが、ベルティの出現は斬新な生気を与えました。その作風はリズムと旋律の扱い方に一段と精彩を加え、その構成に新しい境地を求めたものであると云えましょう。1893年イタリアのモンフェルラートに生れ、カサーレで郵便局員をする傍らマンドリン合奏団の指揮をしていましたが、1960年頃手術の宣告をされそれを苦にして自殺したと伝えられています。

★ アラビヤ風小品 カイロの想い出

作曲：ジョセッペ・マネンテ (op.340)

1921年エジプトから招聘された作者は国王ファド・パシャの宮廷付楽団の指揮者となりました。この時期にエジプトで取材した一連の作品の一つで、国王の侍従武官長シェハタ・カメル・パシャ将軍に捧げられたもので、1922年作者自身によってマンドリン合奏曲に編曲されてイル・プレットロから出版されました。作者はイタリアの生れで1941年ローマで亡くなりました。歩兵第60連隊軍楽隊長の職にあり多くの吹奏楽曲を発表すると共に、マンドリン合奏曲に於いても「メリアの平原に立ちて」「秋の夕暮れ」「マンドリン芸術」等の良き作品を残しております。

★ 田園風小夜曲 我等が懐かしき山々

作曲：ドメニコ・デ・ジョヴァンニ

作者はイタリアのボローニア生れで、主として吹奏楽団に関与して指揮者・教授をする傍ら、吹奏楽曲はもとより管弦楽曲・ピアノ曲・弦楽4重奏曲など多種を物する一方、多数のマンドリン楽曲を発表しています。本曲は作者が日々親しんだ故郷のアペニン山脈に聳える山々に思いを馳せて書いたものと思われれます。フィレンツェの出版社ラピーニ主催の吹奏楽作曲コンクールに入賞した作品で、中野二郎編曲によるものであります。

[高野吉司・記]

山本ミュージックコーナー

〒164 中野区東中野 1-43-7 JR東中野駅東口南下車3分 TEL (363) 9893

取扱品目

- ★ 手工マンドリン・ギター各種
- ★ 各社マンドリン・ギター
- ★ マンドリン・ギター用弦及附属品

お気軽にお立ち寄り下さい。

マンドリン教室

平山 英三郎 先生

ギター教室

平山 英三郎 先生

楽団名称変更のご挨拶

当楽団は昨年4月迄は オルケストラ シンフォニカ タケイ の名称を使っておりましたが、下記の経緯により同年5月から オルケストラ シンフォニカ 東京 と改称致しました。

オルケストラ シンフォニカ タケイ は大正4年 武井守成氏 により創設主宰され、昭和24年に氏が急逝されるまで35年、定期演奏会は49回を数えました。武井守成氏は宮内省楽部長・式部長官の要職にありながら、全生涯を作曲と楽団の育成に専念され、日本のマンドリン・ギター音楽発展の推進者として大きな足跡を残されました。

武井氏 歿後の楽団は理事制により運営されましたが、昭和33年第59回〔武井氏逝去10周年追悼〕定期演奏会終了後、武井氏ご遺族及び理事の意思により解散致しました。

翌昭和34年 理事杉田村雄氏は楽団を復興し、武井氏ご遺族の了解の下に、オルケストラ シンフォニカ タケイ の名を継承し、運営を主宰されましたが、昭和61年第86回定期演奏会の指揮を最後として逝去されました。

杉田氏亡き後は故人の遺志を受け継ぎ、団員の総意に基き幹事制により運営しておりました。ところが昭和61年の秋に 武井氏 ご遺族より、「現在の楽団が オルケストラ シンフォニカ タケイ の名称を引き継ぐことは承服致しかねる」との異議の申し出がありました。杉田氏の指揮の下に28年、既に27回の定期演奏会を開催してきた実績もあり、今更名称を変えることは如何とも思いましたが、熟慮の結果武井氏ご遺族の意思を尊重することとして、上記の通り名称を改めることに致した次第であります。

本夕は改称後第1回の定期演奏会ではありますが、昭和34年の杉田氏による楽団復興定期演奏会を初回として起算すれば、通算第29回となります。

楽団は今後も益々その内容を充実し、格調の高い音楽の形成を目指し、一層の努力を致す所存でございますので、従前変わらないご声援を賜りたくお願い申し上げます。

オルケストラ シンフォニカ 東京 団員一同

指 揮：*高野吉司

第一マンドリン：*肥沼成明 新居裕久 坂本尚子 篠原良俊
本間輝樹 秋元興光 幸田禎治 河地昭治

第二マンドリン：宮崎泰行 市毛利喜夫 浅井キク 村上貴生
*岡田茂 長利一夫 玉木利恵子 村上二郎

マンドラ：*岩片順子 石井栄一 佐藤一徳
田中倭文子 宮本皓永

ギター：*今津章 宮本紀子 西原正 押領司賢治 高畑仁
*山本雅三 城所敏雄 沢田行雄 丸山宏道

リョート：伴峰夫

マンドチェロ：鈴木功 平山英三郎

マンドローネ：高田三九三 *家城孝治

コントラバス：*石黒不二夫 田村隆

フルート：宇野浩二

クラリネット：大塚精治

ピアノ：福田りさ

打楽器：松原竜一

(*— 役員)

最近の主な演奏活動：昭和62年10月 日本消防会館(ニッショーホール)

〃 62年11月 杉並公会堂

〃 63年2月 カザルスホール

オーケストラ シンフォニカ 東京 事務所

〒241 横浜市旭区中尾町82-1

TEL 045-363-1046 代表幹事 今津章